

# ワタミグループが支援する 社会貢献団体のご紹介

ワタミグループは、ワタミ理念に則り、環境・社会・人に対してやさしい存在になることを目指し、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマに掲げています。事業活動を超えた領域でもたくさんの“ありがとう”を集めるべく、社会貢献団体への支援を積極的に行っています。



## 公益財団法人 School Aid Japan への支援

- 外食店舗、介護施設、宅食営業所に募金箱の設置  
…2012年度寄附金額2,028千円
- 従業員が給与天引きで寄附できる体制の構築  
…従業員からの2012年度寄附金額40,654千円
- ワタミグループによる法人会員寄附  
…2012年度寄附金額780千円

P52



## NPO法人 Return to Forest Life への支援

- ワタミグループ社員の参加  
…2012年度正会員34名、賛助会員1,284名、サポーター 3,344名
- ワタミグループ社員がワタミの森の再生活動に参加  
…2012年度1,406名
- 「リターン トゥ フォレスト カクテル」の販売収益の一部を寄附  
…2012年度寄附金額2,194千円

P54



## 一般財団法人 みんなの夢をかなえる会 への支援

- ワタミグループ社員の参加  
…2012年度会員数3,277名
- みんなの夢シンポジウムへの協力
- みんなの夢AWARDへの協賛

P56

# 公益財団法人 School Aid Japan

SAJは、2001年にNPO法人として設立されました。スタート時点ではワタミグループからの支援が中心でしたが、今では一般の方をはじめ、多くの企業様からの支援により運営されている公益財団法人です。  
SAJでは、皆様からいただいた寄附金・会費は「全額、現地の支援費に使う」ことを原則として活動しています。また、何の支援に使われたのか、その用途を明確にしており、「現地の現実が変わったことを確認できる支援」を行っています。



【写真】：1.カンボジアに建設された165校目となる小学校 2.朝給食を食べる子どもたち 3.バングラデシュでの開校式にて代表理事に手紙を渡す子どもたち 4.里親様、支援者様と園児（孤児院「夢追う子どもたちの家」の前にて） 5.孤児院での食事 6.SAJが建設した小学校で勉強する子どもたち 7.SAJ Farmにてレモングラスを日干しする現地の職員



ご支援者様のお蔭で、SAJは13年目を迎えることが出来ました



公益財団法人  
School Aid Japan  
事務局長  
住田 平吉

2013年度も7支援事業、すべてが順調に進んでいます。  
私は、元横浜市立小学校長ですの  
で「教育は人なり」。この言葉を折につ  
け実感し、痛感してきました。「校長に  
よって学校は変わる」。それを受けて  
「担任の先生によって子どもは、良く変  
わる」のです。良く変わっている例が  
今、カンボジア支援事業を担っている5  
人の日本人によってつくられています。

SAJ Farmの2人の日本人職員は「地域に溶け込み、地域に学  
び、地域に還元する」を実践しています。SAJ Farm周辺の農家  
との交流が深まっています。地元の人に米作も学んでいます。そ  
のお礼に耕運機の使い方講習会を行っています。

孤児院では日本人職員が、子どもと一緒に農作業をし、勉強を  
教え、子どもの性格を掴み子どもに寄り添っています。今、孤児  
院では「協力・助け合いの心」が芽生えています。プノンペン事  
務所でも現地職員が日本人職員と一緒に、支援の効果が  
上がっているか、支援家庭を1軒1軒回ってモニタリングをして  
います。職員の心が一つにならなければ出来ないことです。

## 活動目的

「一人でも多くの子どもたちに、  
人間性の向上のための教育機会と教育環境を提供する」  
子どもたちの夢を育み、健全な成長を促進すると共に、将来、自身に備  
わったすばらしい能力に気づき、それを伸ばし、そして、社会に貢献で  
きる子どもたちを育成する事を目標にして、この活動を行います。

## 活動方針

- 「School Aid Japan」教育支援の3つの方針
1. 学校教育を充実させる
  2. 地域に根ざした支援
  3. 点から面への支援の広がりを目指す

## 学校建設支援事業

開発途上国では、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織  
的、効率的に行うために特に重要な役割を果たします。SAJで  
は、カンボジアなどの開発途上国において、学校の無い地域には  
小学校や中学校を建設し、倒壊の危険にある校舎や老朽化した  
校舎の再建築を行っています。  
2012年度からは、バングラデシュでも学校建設を開始しま  
した。2013年3月末現在、SAJが建設した学校は、累計でカン  
ボジア164校、ネパール8校、バングラデシュ5校、計177校と  
なりました。2013年度はカンボジアで18校、バングラデシュで  
5校の建設を予定しています。

## 就学支援事業（ふれあいサポートプラン）

開発途上国では、貧しさのために未就学の子どもや、入学して  
も途中退学せざるを得ない子どもたちがたくさんいます。  
SAJは、貧しい家庭の子どもたちへの就学支援（制服上下1着・  
ノート・ボールペンなどの文房具）をすることで、学校で学習が  
続けられるように支援しています。  
2012年度は、SAJが建設した学校15校で867名の子ども  
たちに制服、ボールペン、ノートを支援しました。  
就学支援は、これまではコンポチュナン州のSAJ建設小学校  
のみで行っていましたが、2012年度よりポーサット州にも支援  
を拡大しました。まずは試験的にポーサット州のコムオー小学校  
で支援を行い、2013年7月からは7校292人に支援を行って  
います。

## 食の支援事業

開発途上国では、貧しさのために1日1回の食事がとれない子  
どもたちや、食費を稼ぐために、学校に入学せずに働いたり  
学校を休んで働いている子どもたちもいます。そのような子ども  
たちに、学校での学習が続けられるよう食の支援をしています。  
2012年度は、15校566人に月10Kgのお米を支給しました。  
また、WFPの協力を得て朝給食を提供しており、2012年度は27  
校8,594人に提供しました。さらに、お米の保管方法や計量の仕  
方、帳簿のつけ方、盗難防止策などについても指導をしています。  
お米支援は、ポーサット州にも拡大しています。2012年度、  
ポーサット州のコムオー小学校で、試験的に支援を行い、2013  
年10月からは7校264人に、本格的に支援を行っています。

## 孤児院建設・運営事業

SAJは、2008年カンボジア・ポーサット州に、孤児院「夢追  
う子どもたちの家」を開園しました。「80人の子どもたちの幸せ  
のためだけに運営する」を方針とし、子どもたちが勉強する学習  
室や、働く場所として畑をつくり、しっかりとした生活習慣とあ  
るべき人格と学力を身につけ、自立するまでのサポートを行って  
います。  
2013年8月末現在、75名の子どもたちが生活しています。  
また、2013年10月には、孤児院から初の大学生が誕生しま  
した。

## 就労支援事業（農業）

カンボジアは失業率が高いものの、農業の技術をもっていれば  
生活していくことができると言われています。そこでSAJは、孤  
児院の子どもに農業技術を教えること、将来的にはカンボジアの  
若者に農業技術を伝える研修所として活用することを目的に、  
SAJ Farmを開設しました。13haの農地を購入し、2010年よ  
り農業を行っています。

- 具体的には、以下の3つに取り組んでいます。
- ①化学肥料を使わず、現地で手に入る肥料を  
使って有機農業を行います。
  - ②水のないカンボジアで米の二期作を行うことと、  
レモングラスの生産に取り組みます。
  - ③1haの農地で家族4人が食べていける農家の  
モデルをつくります。

## 収益事業

SAJは、2012年11月末に公益認定を受け、同年12月から  
SAJ Farmで収穫したレモングラスをカンボジア国内の日系企業  
へ販売を開始しました。レモングラスは、レモングラスティーなど  
の商品の原料として使われており、商品は日本でも販売されてい  
ます。その収益は、カンボジアでの就労支援のための資金源とし  
ます。

## 学校運営事業

SAJは、開発途上国の教育レベルの向上を目的として、その  
国のモデルとなるような学校をつくることを目指し、バングラ  
デシュで学校運営事業を開始しました。現在は、学校法人都文館  
夢学園様と現地NGO、Basic Development Partners様の全  
面協力を得て、中高一貫校（Narayankul Dream Model High  
School）の運営を行っています。

## 東日本大震災支援活動

SAJは、東日本大震災の発生に伴い、2011年3月から、災害支  
援活動を行いました。これまでに、災害募金を募集し、宮城県への  
物資支援、岩手県陸前高田市へのボランティアの募集と派遣、陸  
前高田市復興街づくりイベントの後援、経営勉強会の開催、おせ  
ちの配布などを行いました。  
これらの事業のうち、宮城県への物資支援、岩手県陸前高田市  
へのボランティアの募集と派遣、陸前高田市復興街づくりイベ  
ントの後援に対する寄附金に関しては、2011年6月に財務大臣の  
指定を受けました。  
2012年10月には、財務大臣の指定寄附による災害活動を終了  
し、指定寄附の残金を宮城県と陸前高田市に全額寄附しました。

SAJ ホームページ…<http://www.schoolaidjapan.or.jp/>

# NPO法人 Return to Forest Life

2006年より社員の有志で行っていた森を再生させる活動「森づくり」に、ワタミグループとして積極的に取り組むため、2007年10月、NPO法人 Return to Forest Life(以下、RFL)を設立しました。現在は、ワタミグループのほぼ全社員がRFLの会員、またはサポーターになるなど、多くの会員からの支援により、「美しい地球を子どもたちに残すため、一つでも多くの森を再生させたい」という思いのもと、「ワタミの森」を運営、管理しています。



[写真]: 1 間伐後の明るい森 2 白杵の森での森開き 3 子どもたちへの環境教育 4 日向の森での森開き 5 植樹の様子 6 ワタミの森の間伐材でつくられたSAJ募金箱



活動拡大を加速させるため、モデルづくりをします。



NPO法人  
Return to Forest Life  
事務局長  
小出 浩平

2012年度、私たちは森林再生活動の第一歩を踏み出しました。2012年10月には日向の森(約11ha)、2013年2月には白杵の森(約0.1ha)で、それぞれの森開きを地域の皆様と共に開催させて頂きました。

2013年度は、従来の活動方針(森林再生、間伐材活用、環境教育への貢献)に着実に取り組みながら、活動を加速させるための地域モデルづくりに取り組みます。

このモデルとは、ワタミグループが目指す循環型地域社会の一部を形成するものです。現状の日本では、森林単体でモデルをつくることは経済循環から困難と考えています。そこで地域の皆様と共に、森林の多様な価値(炭素吸収、水源、生物、土、里山など)を引き出し、環境・経済が循環するモデルを目指します。私たちは、まだスキル不足ですので、専門家や各地域の皆様へ支えられての活動となりますが、一歩ずつ前進したいと思っています。

地球が誕生して約46億年、約5億年前の森の誕生によって、生物は生きることが出来るようになりました。森の再生こそ、「美しい地球を美しいままに子どもたちに残していく」ことにつながります。是非、皆様も森に関心を持ち、活動に参加してください。

## 活動目的

「美しい地球を子どもたちに残すため、一つでも多くの森を再生することに貢献する」

## 活動方針

1. 不健全な森林を再生させる
2. 森林の資源の有効活用
3. 環境教育への貢献

## RFLが行う「森づくり」

人工林に手が入らない状態で放置されると、土砂の流出や水源涵養機能の低下をもたらし、災害にも弱い森林になる恐れも出てきます。きちんと管理され生態系が維持された森は、きれいな水をつくり、災害に強い土壌をつくり、そして光合成を行うことによって二酸化炭素を吸収し酸素を作り出して、私たちが住んでいる地上を住みやすい環境に維持してくれます。

RFLが行う「森づくり」では、荒廃している山林を適切な管理を施すことにより少しずつ元の姿に戻し、たくさんの生き物達を森に呼び戻すことを主な目的としています。多くの生き物にとって森はふるさとであり、そのふるさとである森を次世代の子どもたちに健全な状態で引き継いでいきたいと考えています。

## 不健全な森林を再生させる

日本は国土面積の約3分の2が森林であり、その約4割が杉・ヒノキなどの人工林であると言われています。その人工林のうち、さらに約4割が人の手が入らず不健全な状態(全森林の約16%、

約400万ha=九州の面積)にあります。この不健全な人工林を適正に管理(間伐、下草刈り、枝打ち、植樹など)することによって、多様な生き物たちが存在する里山のような自然林、あるいは健全な人工林に再生させる活動を行います。

森の再生において最も大切なことは、その土地に合った目標林形を定め、再生計画を立案することです。RFLは、専門家(株式会社森林再生システム様)のご協力のもと、森林の調査を行い、再生計画を立案するところから始めています。

RFLは2012年度、再生計画に基づき、ワタミの森において197本を間伐し、新しい命として477本の植樹を行いました。2013年度には主に日向の森と白杵の森で300本の間伐と、1,000本の植樹(内600本は針葉樹)を計画しています。

## 森林資源の有効活用

森林の再生活動により倒木される間伐材は、活用せずに放置すると腐敗してCO<sub>2</sub>を排出するだけでなく、土砂崩れなどの災害の原因となります。この倒木された間伐材を適正に活用することによって、森林再生活動を促進させ、国産材の自給率向上、海外森林の違法伐採の防止に貢献し、その結果として、関係する地域産業に貢献することになると考えています。

### □2012年度、ワタミの森の間伐材の主な用途

- ワタミグループの介護施設の建材: 2012年度に新規開設された介護施設の内装の材料や、各居室に掲示される額縁、ベレットストーブの燃料として使用されました。
- ワタミ(株)長期株主様優待制度にて贈呈される記念品の材料: 感謝状の額縁、記念品の材料として使用されました。
- バイオマスプラスチック箸: 間伐材の樹皮と端材55%とポリプロピレン(樹脂)45%を混合し製作しています。
- 公益財団法人SAJの募金箱の材料(製作は、福祉作業所に依頼)
- 株式会社カウネット様が販売する備品の材料: 店舗用備品を製作していただき、販売していただいています。

## 環境教育への貢献

環境活動、地球資源(森林)保全への貢献において、もっとも大切なことは、環境負荷を出す人の行動が変わることです。RFLは、ワタミグループ社員を含め、すべての人に対する環境教育の場の提供に貢献しています。環境教育は、ワタミの森だけでなく、地域のNPO法人にご協力いただきながら、大阪府能勢町、静岡県掛川市でも行っています。

2012年度は、ワタミグループ社員1,406名、学校法人都文館夢学園の中学生175名、大田区の小学生45名に、環境教育に参加していただきました。また、RFLは、ワタミ手づくり厨房東松山センターで行われている植樹活動を支援しています。

2013年度は、1,600名の方に環境教育に参加していただくことを目標としています。

## RFLが行っている環境教育

### □安全講習・フィールド(森の様子)案内

安全第一で活動を行えるように、間伐作業の注意点などを伝える安全講習を作業前に行います。その後、森林の再生活動への理解を深めるために、森の中を歩きながら、手入れが進んでいる様子や病気の木を実際に見ていただいています。

### □間伐作業

森の中に日差しが入るよう意識しながら、病気の木から間伐を進めています。間伐後、1本の木を運べる大きさに切る「玉切り」を行います。

### □植樹作業

土地や場所により、植樹が必要な場合は、広葉樹、針葉樹を植樹しています。苗木は日本に古来からあるシイ・カシ・タブ類で種類を混ぜて密植しています。どんぐりから約2年かけて育てられた苗木の根は、はりが強く、密植させることで互いに競いながら育っていくため、通常よりも早く森づくりができるといわれています。

## ワタミの森の拡大

### □日向の森

RFLは、2012年10月、民間活力による森林整備の推進を図る千葉県山武市と、市有地である日向の森の一部(千葉県山武市、約11ha)において森林保全協定を締結し、ワタミの森としての活動を開始しました。同年12月には、専門家の指導のもと、森林調査を実施しました。現在は、調査結果に基づき、森林の特徴に合わせた目標林型を設定し、それを実現するための再生計画を立案しています。

### □白杵の森

RFLは、2013年2月、大分県白杵市、大野郡森林組合と協同で、大分県が進める「企業参画の森林づくり」の一環として、2023年までに市有林「白杵の森」(大分県白杵市、約0.1ha)で森林整備に取り組む趣旨の協定を締結しました。締結の当日は、地元の小学生や幼稚園児にも参加していただき、記念植樹を行いました。白杵の森は、クヌギ、コナラなどの広葉樹が自生する森で、多様な生態系が形成されており、人工林とは異なった再生計画が必要になります。RFLは、2012年5月に行った、「植生調査」に基づき、生態系を把握した上で目標林型を設定し、再生計画を立案しています。

■「ワタミの森」の所在地●と、2012年度、RFLが環境教育を行った地域●



RFL ホームページ...<http://www.returntoforestlife.or.jp/>

ワタミグループが支援する社会貢献団体のご紹介

# 一般財団法人 みんなの夢をかなえる会

みんなの夢をかなえる会は、2010年11月に特定非営利活動法人の認証を取得しました。2013年5月には、NPO法人みんなの夢をかなえる会の事業を一般財団法人みんなの夢をかなえる会に移管しました。

本来、夢をもつことは、平等に与えられた人間の権利です。しかし、その権利が何らかの理由で持てない人々が世界にはたくさん存在します。すべての人々が平等に夢をもつことのできる社会を目指します。



写真：1「みんなの夢AWARD3」のステージでの夢のプレゼンテーション 2「みんなの夢AWARD3」でアワードを受賞した垣内さん 3「みんなの夢AWARD3」ゲスト審査員のムハマド・ユヌス氏と渡邊美樹のトークセッション 4WEBサイト「未来の名刺」 5「未来の名刺講座」



## 国内最大規模のイベントとなった 日本武道館「みんなの夢AWARD」を開催



一般財団法人  
みんなの夢をかなえる会  
業務執行理事/事務局長  
中川 直洋

NPO法人「みんなの夢をかなえる会」は、2013年より、一般財団法人として、運営主体の変更を行い、さらなる公益性、事業活動の拡大を行っていきたくと考えております。

みんなの夢をかなえる会の活動目的は、みんなの夢でよりよい社会を創造することにあります。「未来の名刺」の普及活動、「みんなの夢シンポジウム」、「みんなの夢AWARD」の開催が主な活動内容です。

「みんなの夢AWARD」は、「みんなをワクワクさせ、みんなが夢をもちたくなること」をコンセプトに開催され、2012年度は日本武道館にて約8,000人の方で参加いただきました。日本一の夢に輝いた垣内俊哉さんには、ワタミグループからも支援が決定され、本格的に活動しています。

### 活動目的

「みんなの夢をかなえる会」は、「多くの若者が、自分と社会の未来に“責任”をもつ“夢”を実現できる社会にしたい」という考えのもと、人・地域・日本の活性化を図ることをミッションに掲げています。「夢をかなえるきっかけ」を世の中に広く訴求し、「夢の途中」の人々を応援します。

### 活動方針

- みんなの夢シンポジウム  
(みんなの夢と社会貢献を考える)
- 未来の名刺プロジェクト  
(5年先の自分の名刺で夢の発信)
- みんなの夢AWARD  
(夢を語り、夢を実現させる活動)

### 「みんなの夢シンポジウム」

みんなの夢をかなえる会は、「夢あふれ、ありがとうが飛びかう社会」を目指し、代表理事でありワタミグループ創業者の渡邊美樹によるみんなの夢と社会貢献を考える「みんなの夢シンポジウム」を全国で開催しています。渡邊美樹と考える「みんなの夢」をテーマに、2012年度は、東京都、千葉県、愛知県、大阪府、長崎県にて、計8回開催し、10,650名の方々に参加いただきました。

今後も、参加者の皆さんと夢の大切さを共有し、皆さんと一緒に元気になれるようなシンポジウムを目指していきます。

### 「未来の名刺プロジェクト」

「未来の名刺プロジェクト」は、夢の実現に役立つ場となること、まだ夢が見つからない人が夢を見つけるためのヒントを得られる場となることを目的として生まれました。

WEBサイト「未来の名刺」では、「5年先の夢を名乗って、未来の名刺を作ろう」というコンセプトのもと、すてきな夢を持つ方々にその夢を投稿していただけます。(5年先の肩書きで名刺を作成し、5年先の道のりを作成していただけます。)

投稿された夢は「未来の名刺」としてWEBサイトに掲載されます。「未来の名刺」に掲載されると、「みんなの夢AWARD」にエントリーすることができます。

2012年度末現在、約2,000名の方に投稿していただいています。

未来の名刺WEBサイト <http://www.miraimeshi.net/>

#### □「未来の名刺講座」の開催

みんなの夢をかなえる会は、東京都渋谷区の小学校を訪問し、小学校高学年を対象とした「未来の名刺講座」を開催しています。講座は「未来の名刺」をテーマに、「こうすれば社長になれる」(渡邊美樹著 小学館)を教材として開催しており、子どもたちに夢を具体的にイメージし、夢をかなえるまでの道のりを考えるきっかけを提供しています。

### 「みんなの夢AWARD」

「みんなの夢AWARD」とは、みんなをワクワクさせ、みんなに夢を与えるすてきな夢に贈られるアワードです。みなさんの夢をWEBサイトで募集、審査し、「みんなの夢AWARD」で表彰します。審査の基準は①みんなをワクワクさせ、世界をちょっと良くする夢であること ②夢を具体的に描き、かなえるための計画を立て

ていること③毎日、夢に向かって少しずつでも前進していることです。アワード受賞者には、渡邊美樹およびみんなの夢をかなえる会、各協賛企業が夢の実現に向けて積極的にサポートします。

#### □「みんなの夢セミナー」の開催

みんなの夢をかなえる会は、「みんなの夢AWARD」の二次選考を通過した応募者を対象に「みんなの夢セミナー」を開催しています。「みんなの夢セミナー」では、事業を成功させる上で重要となる思考やスキルをテーマに講演を行っています。

### これまでの「みんなの夢AWARD」のご紹介

#### ●第1回…2010年12月21日開催

場所：日比谷公会堂

参加者：約1,500名

協賛企業：9社

最終選考に残った5名の中からアワードを受賞したのは、大学生の税所篤快さん。DVDに納めた授業を農村部の高校生に届けるといった活動をバングラデシュで行っており、今後はアジア貧困地域全体へと教育革命を広げていくことが夢と語りました。

#### ●第2回…2012年1月30日開催

場所：中野サンプラザ

参加者：約2,300名

協賛企業：14社

選考会を通過した4名と、被災地特別枠として出場した2名の中からアワードを受賞したのは、きのこのSATO株式会社の佐藤博文さん。地元の岩手県陸前高田市を「震災の街」ではなく、「きのこの街」と呼ばれる街にすることを目指し、自らのきのこ栽培を通して雇用を生み出す計画を進めていきたいと語りました。

#### ●第3回…2013年1月30日開催

場所：日本武道館

参加者：約8,000名

協賛企業：57社

協力学生団体：51団体

最終選考会に残った7名の中からアワードを受賞したのは、垣内俊哉さん。障がいや価値を変える「バリアバリュー」という独自の考え方でユニバーサルデザインの導入コンサルティングなどを行っており、日本をユニバーサルデザイン先進国にすることが夢と語りました。

みんなの夢AWARD3には、ゲスト審査員としてムハマド・ユヌス氏にもご参加いただきました。また、若者の夢をサポートするというコンセプトに基づき、新たな試みとして、協賛企業と学生が名刺交換を通してコミュニケーションを図る場を設けました。

### 「みんなの夢AWARD4」を開催!

みんなの夢をかなえる会は、2014年2月13日、今年度も日本武道館にて、「みんなの夢AWARD4」を開催します。アワード受賞者には、特別協賛企業であるワタミグループから、最大2,000万円の支援が贈られます。また、最終選考会に残った方には、協賛企業から様々なサポートも贈られます。さらに今回は、アワード受賞の基準と、ムハマド・ユヌス氏が提唱する「ユヌス・ソーシャルビジネスの7原則」にあてはまる夢には「ソーシャルビジネス賞」を贈る予定です。



ワタミグループの外食店舗で掲示されている「みんなの夢AWARD4」開催告知ポスター

みんなの夢AWARDホームページ…<http://www.miraimeshi.net/award/>

みんなの夢をかなえる会ホームページ…<http://minnanoyume.org/>